

すすむし

VOL. 14, No. 1 (通巻 91) 30. 8. 1964

倉敷昆虫同好会発行
倉敷市岡山大学大原農業生物研究所内
(連絡事務所 倉敷市幸町倉敷昆虫館内)

岡山県の蛾(2)

— スズメガ科 —

楨 本 精 二

前回は県下の蛾の研究状況につき概説を試みたが、今回は蛾のうちで最もよく採集され、研究されているスズメガ科について申し上げます。

スズメガは飛行機の機体を思わせるスマートな胴と、それに不釣り合いな短かいが力強い翅を持ち、黄時花から花へ敏捷に飛び廻り吸密する習性がある。電灯やアセチレン灯には集り難いが、紫色蛍光灯や水銀灯等紫外線の多い光にはよく集る。採集期は5月から10月で一年2回発生のもものが多く、ホウジャク類には成虫越冬をするものがあり、殆ど一年中採集出来る蛾である。

日本に産するスズメガ科は既発表の図鑑・目録・印刷物によると5亜科27属57種あり、此のうち図示されていないのは、オビグロスズメ・ヒメホウジャク・ヒメシタベニスズメ・タカサゴズメの4種である。

岡山県産のスズメガについては

- 1 昭和5年 岡山県 岡山県内生物目録 27種
- 2 昭和34年10月15日 「岡山と昆虫」
片山豊八 美作産蝶蛾目録 32種
- 3 1960・11・23 美作の自然—第6号
片山豊八 黒沢山採集記—黒沢山蛾類一覧表
(第1報) 11種
- 4 1961・11・23 美作の自然—第7号
道信 順 黒沢山「蛾類一覧」に続いて 2種
- 5 すずむし 1(8):54 1951 小野洋
鶴形山でクチバスズメ採集
- 6 すずむし 2(1):4-5 1952 青野孝昭
倉敷産スズメガ科目録 13種
- 7 すずむし 2(5):41 1952 青野孝昭
スズメガの分布豆資料 2種
- 8 すずむし 3(2):14 1953 広瀬

義躬 モモスズメの悲劇

9 すずむし 3(4):37 1953 広瀬

義躬 モモスズメの燈火飛来時刻

10 すずむし 3(10):148 1953

小野 洋 倉敷のベニスズメ

11 すずむし 4(8):44 1954 小野

洋 黒田でエソスズメを採集

12 すずむし 4(11):56 1954

小野 洋 玉島のギンボシスズメ

13 すずむし 5(6):23 1955 小野

洋 倉敷のクロクモスズメ(筆者註ブドウスズメ)

14 すずむし 5(10):37 1955

赤枝一弘 西大寺産スズメガ目録 14種

15 すずむし 6(3):31 1956

赤枝一弘 西大寺産スズメガ追加 2種

16 すずむし 8(1):7-8 1958

赤枝一弘 室内に飛込む蛾について 5種

17 すずむし 11(1):1-3 1961

筆者 都窪郡福田村産蛾類目録 10種

の文献があり、重複したものを除くと、23属34種が記録されている。

倉敷昆虫館に展示してあるスズメガ科は17属24種で、大山産を除く県内産の目録は16属22種で、下記のとおりである。目録は和名・学名・北陸館発行原色昆虫大図鑑I(蝶蛾篇)の図版番号・番号・保育社発行原色日本蛾類図鑑(下)の番号・採集年月日・採集場所(2回目からは簡略)・採集者名(2回目からは簡略)の順にならべてある。

記

スズメガ上科 Superfamily SHINGOIDEA
スズメガ科 Family SHINGIDAE

- 無感覚毛群 *Sphingidae Asemnophorae*
 メンガタスズメ亜科
 Subfamily **ACHERONTIINAE**
 メンガタスズメ族
 Tribe **Acherontiini**
 Genus *Acherontia* Laspeyres, 1809
- 1 メンガタスズメ
Acherontia styx crathis Rothschild
 et Jordan 49-2 : 2631
 VI. 2. 2. 63 玉島市玉島 横本精二
 (S.M.)
 Genus *Herse* Cten, 1815
- 2 エビガラスズメ
Herse convolvuli Linne
 49-3 : 2633
 K. 18. 58 西大寺市西大寺 赤枝一弘
 (K.A.)
 VII. 2. 5. 62 赤磐郡熊山町 近藤光宏
 (T.K.)
 IX. 8. 63 倉敷市西高井 青野孝昭
 (T.A.)
 X. 10. 63 玉島 S.M.
 クロスズメ族 Tribe **Sphingini**
 Genus *Psilogramma* Rothschild et
 Jordan, 1903
- 3 シモフリスズメ
Psilogramma incerta Walker
 VI. 5. 63 西高井 T.A.
 ウンモンズズメ亜科
 Subfamily **AMBULICINAE**
 Genus *Oranbulyx* Rothschild et
 Jordan, 1903
- 4 ホソバスズメ
Oranbulyx ochracea Butler
 51-1 : 2640
 VI. 1. 16. 63 新見市足立 T.A.
 各地に産するが少ない。
 Genus *Clanis* Hübner, 1820
- 5 トビイロスズメ
Clanis billineata tsingtaica Mell
 51-4 : 2644
 VI. 2. 2. 54 西大寺 K.A.
 Genus *Morumba* Moore, 1882
- 6 モモスズメ
Morumba gaschkawitschii echepron
 Boisduval 51-5 : 2646
 V. 1. 59 玉島市黒崎 T.K.
 VI. 1. 17. 60 阿哲郡大佐町布瀬 K.
 A
- 7 クチバスズメ
Morumba sperchius sperchius Menetries
 51-7 : 2645
 VI. 2. 2. 63 玉島 S.M.
 岡山市津島 K.A.
 Genus *Langia* Moore 1872
- 8 オオシモフリスズメ
Langia zenzeroides nauai Rothschild
 et Jordan
 52-1 : 2643
 III. 3. 1. 55 西大寺 K.A.
 本邦産スズメガ科中最も大きいもので、3月
 中旬頃から4月にかけて発生するため採集記
 録が少い。 県北に産することは古くから知
 られていたが、本会の楠田雲居、山砥司郎両
 君の熱心な採集活動により倉敷市においても
 多数産することが判明、県下全般に産するも
 のと思われる。
 Genus *Callanbulyx* Rothschild et
 Jordan 1903
- 9 ウンモンズズメ
Callanbulyx tatarinovi Bremer et Grey
 52-3 : 2653
 VII. 2. 9. 60 布瀬 K.A.
 Genus *Smerinthus* Latreille 1802
- 10 ウチスズメ
Smerinthus planus Walker
 52-6 : 2651
 V. 1. 59 倉敷市連島町 T.K.
 Genus *Phillosphingia* Swinhoe 1897
- 11 エゾスズメ
Phillosphingia dissimilis Bremer
 52-8 : 2655
 VII. 7. 62 高梁市玉 脇本 浩(H.
 W.)
 有感覚毛群 *Sphingidae Semnophorae*
 オオスカシバ亜科
 Subfamily **SESIINAE**
 オオスカシバ族
 Tribe **Sesini**
 Genus *Hemaris* Dalman 1816
- 12 スキバホウジヤク
Hemaris radians Walker
 53-1 : 2667-2668
 V. 1. 4. 61 布瀬 K.A.
 Genus *Cephonodes* Hübner 1820
- 13 オオスカシバ
Cephonodes hylas Linne
 53-3 : 2666

- VII. 11. 55 西大寺 K. A
 VIII. 13. 61 倉敷 T. A
 クルマズメ亜科
 Subfamily PHILAMPELINAЕ
 ホウジヤク族
 Tribe Nephelini
 Genus *Arpelophaga* Bremer et Grey
 1852
- 14 クルマズメ
Arpelophaga rubiginosa Bremer et Grey
 53-5: 2656
 VIII. 11. 63 玉島 S. M
 Genus *Girelca kirby* 1880
- 15 ホシヒメホウジヤク
Girelca hirmachala sangaica Butler
 53-8: 2665
 X. 1. 58 津島 K. A
 VI. 14. 61 連島 T. K
 VIII. 3. 62 高梁市巨瀬 H. W
 IX. 1. 63 玉島市陶 S. M
 Genus *Macroglossum Scopoli* 1777
- 16 ホウジヤク
Macroglossum stellatarum Linne
 53-10: 2663
 VI. 15. 54 西大寺 K. A
 VI. 11. 61 児島市タコラ山 小野洋
 (H. O)
- 17 ホシホウジヤク
Macroglossum pyrhosticta Butler
 53-11: 2664
 X. 5. 58 西大寺 K. A
 X. 1. 61 連島 T. K
 VII. 20. 62 玉 H. W
- 18 クロホウジヤク
Macroglossum saga Butler
 53-12: 2659
 X. 4. 63 玉島 S. M
 コスズメ亜科
 Subfamily DEILEPHILINAЕ
 Genus *Deilephila* Laspeyres 1809
- 19 ベニスズメ
Deilephila elpenor lewisii Butler
 54-2: 2675
 津島 K. A
 県南では多くない。
 Genus *Theretra* Hübner 1820
- 20 キイロスズメ
Theretra nessus Drury
 54-5: 2672
- VII. 3. 61 西大寺 K. A
 K. 20. 62 玉 H. W
 VIII. 13. 63 玉島 S. M
- 21 コスズメ
Theretra japonica de l'Orza
 54-4: 2671
 K. 13. 55 西大寺 K. A
 VIII. 10. 61 倉敷市旭町 重井 博
 (H. S)
 K. 15. 61 連島 T. K
 VI. 13. 62 倉敷市福田町古新田
 猪原幸正 (Y. I)
- 22 セスジズメ
Theretra oldenlandiae Fabricius
 54-6: 2669
 VIII. 20. 55 西大寺 K. A
 展示品以外で県内産として既発表のものは
 イ エゾシモフリスズメ
 県北山地に産す。津山市、黒沢山の記録あり
 会員山砥司郎が1962産を展示しており、本
 人は倉敷市で採集と言っているが再調査の必要
 があり或は県南にも産するかも知れない。
- ロ コエビガラスズメ
 阿哲郡上熊谷の記録あり。北方種の蛾で県境
 の山地に分布するものと思われる。広島県北部
 山地の蛾類(第1報)にも記録がある。
 文献 1参照
- ハ クロスズメ
 川上郡日里村、勝田郡広戸村、津山市小田中
 の記録あり。県中、北部に産する。文献1, 2
 参照
- ニ モンホソバズメ
 ホソバズメ属は各地に産するが少く、その
 うちでも本種は特に少ない。勝山町神庭の記録
 がある。文献1参照
- ホ フトオビホソバズメ
 県北部山地に産す。真庭郡富原、加茂町倉見
 黒沢山の記録がある。文献1, 2, 3参照
- ヘ ギンボシズメ
 山地性の蛾で、津山市、真庭郡勝山町、苫田
 郡富村の記録がある。県南では玉島市の記録が
 ある。文献1, 2, 12参照
- ト ヒサゴズメ
 本州、四国では山地性の稀種で、片山豊八氏
 が津山市で記録されている。文献2参照
- チ ブドウズメ
 県北部に産し、真庭郡勝山町、津山市、黒沢
 山の記録がある。県南では倉敷市で小野洋氏が
 採集記録されている。文献1, 2, 3参照

リ ハネナガブドウスズメ

山地性の蛾で奥津町久田・黒沢山の記録がある。文献2, 3参照

ヌ ヒメクロホウジヤク

津山市の記録があるだけである。文献2参照

ル ビロウドスズメ

津山市・倉敷市藤戸町・都窪郡庄村日差山の記録があり、泉南地方でも採集可能である。

文献1, 2参照

オ サザナミスズメ

西粟倉村後山の記録あり。泉北産地に産する文献2参照

岡山県未記録種については

クロメンガタスズメ・リコウキコウオオスカシバ・ヒメホウジヤク・オキナワクロホウジヤク・ヒメシタベニスズメ・シタベニスズメ・タカサゴスズメは奄美大島以南に産し、一部が九州・四国の温暖地帯に記録されているもので県内での採集は全く見込みがない。

サツマスズメは高知県・和歌山県の南端部・山口県に記録があるが、九州以南に産するもので県内での採集は望めない。日本海側では島根県浜田市の記録があるが、同地は日本海流の影響で東洋熱帯系の昆虫類がよく漂着発生するところである。

イツボンセスジスズメは九州以南に産し、本州では山口県防府市のみ記録がある。私が本誌に本種を記録したが、これは私が蛾の採集を初めた許りの時であり、北隆館発行原色昆虫大図鑑Ⅰ第54図版と91頁の記載の不一致に気づかずそのまま発表したもので、誤報につき訂正取消しをします。フリッツエホウジヤクも南方系の蛾であるが、最近北限が静岡県伊豆半島まで延び、黒潮洗う温暖の地では毎年少数ながら採集されているが、瀬戸内海地方での採集記録はなく、当地方での採集は見込みがない。

オビグロスズメは日本産蛾類総目録に本州とのみ記録があるが、図示もなく私には判らない。

ウスビロウドスズメは和歌山県串本の一記録により、最近ビロウドスズメから分離されたもので今後の発見が期待されている。国外での産地はシナムとなつている。

ヒメクチバスズメ・ヒメウチスズメ・ノコギリスズメは北方系の種で本州以南では山地に産するが、泉北1000メートル級の山地での採集がすすめば、記録されるかも知れない。

マツクロスズメ・イブキスズメは中部以北に産する珍種で本県では採集の可能性はない。アカオビスズメは本州・九州・琉球の記録があるが、

日本では稀種で採集例が少ない。

コウチスズメは埼玉・大阪・兵庫・愛媛より採集報告があつた珍種で、本県北東部山地でも採集の可能性はある。

クロテンケンモンスズメ・クロスキバホウジヤクは地域によつてはかなり取れるので本県での採集が期待出来る。

ヒメサザナミスズメは最近サザナミスズメより分離されたもので、サザナミスズメと混じて採集されているので、本県北部地方の山地で採集出来るかも知れない。

以上本邦産スズメガ科について展望を試みたが之により県内スズメガ科の諸資料が頻出して完全な研究が完成されんことを期待するものである。

本稿を記するにあたり、北隆館発行原色昆虫大図鑑Ⅰ(蝶蛾篇)、保育社発行原色蛾類図鑑下、陸水社発行日本産蝶蛾目録第六部及び頭初に列記した本県内の諸記録を参考にしたので諸先輩に厚く御礼を申し上げる。又会員青野孝昭氏には「すずむし」の貴重な文献を貸与下され、種々御指導を受けたので深く感謝する。

なおスズメガ科以外の諸科についても、岡山県の蛾を連載する予定であるが、資料がスズメガ科を除いては殆ど見当らず困まつているので、お手持りの資料を本誌おとしぶみにどしどし投稿下さる様お願いします。

追記

本稿終3後到着した蛾類通信34:257

258 1964に井上 寛がオビグロスズメについて図示詳説しているので追記する。

"すずむし"投稿規定

- 1 会員、顧問は"すずむし"に寄稿することが出来る。
- 2 原稿は必ず横書原稿用紙を使用し1行22字になるように書く(1行20字の普通原稿用紙の場合は欄外に2字書いて22字にすること)
- 3 おとしぶみ欄原稿(短報)は欄外に赤色で"おとしぶみ"と明記し著者名は(姓)に入れて書く
- 4 学名はできる限り明確に書く
- 5 図版の原稿は必ずすみ又は黒インキを使用し₁で書く
- 6 図版(写真を含む)は掲載面積にして一ページ迄(5×7cm4枚分相当でこれをこえると考えられる場合には、必ず大きさを指定されたい指定なき場合は編集幹事に委されたものとみなします)とし、超過図版については実費を申し受ける。
- 7 原稿の登載に関しては、これを一切編集幹事に委せる。

カミキリムシ科採集目録

岡 本 忠

筆者は1957より、特にカミキリムシ科について日羽(吉備郡湯原町)を中心に調査しておりましたが、一応ここで現在保存しております標本を、他の場所の採集品も併せて発表させていただきます。なお同定、御教示をいただいた平田信夫氏、青野孝昭氏に深謝致します。

PRIONINAE

ノコギリカミキリ亜科

- 1 *Megopis sinica* White
ウスバカミキリ
真庭郡湯原町湯本, 3exs., VI. 29. 1960 燈火
- 2 *Prionus insularis* Motschulsky
ノコギリカミキリ
日羽 3exs., VI. 24. 1959, 1ex., VI. 4. 1959

DISTENIINAE

ホソカミキリ亜科

- 3 *Distenia gracilis* Blessig
ホソカミキリ
日羽, 2exs., VI. 14. 1959, 燈火

ASEMINAE

マルクビカミキリ亜科

- 4 *Arhopalus rusticus* Linnaeus
ムナクボサビカミキリ
日羽, 1ex., VI. 24. 1959 燈火
- 5 *Spondilis imprestoides* Linnaeus
クロカミキリ
日羽, 1ex., VI. 30. 1957 燈火

LEPTURINAE

ハナカミキリ亜科

- 6 *Amaeops minuta* Gebler
ヒナルリハナカミキリ
日羽, 2exs., VI. 12. 1964, ツツジ花上
- 7 *Pidonis areolata* Bates
セスジヒメハナカミキリ
日羽, 1ex., V. 4. 1959 花上
高梁市玉川, 1ex., V. 3. 1958 花上
- 8 *Gaurotes kozhetnikovi* Plavilstshakov
コマクビアカハナカミキリ
日羽, 1ex., VI. 29. 1958 花上
高梁市慶応, 1ex., V. 10. 1959 死個体で

- 9 *Anoplodera rubra succedanea* Lewis
アカハナカミキリ
日羽, 3exs., V. 3. 1958 花上
- 10 *Anoplodera scotodes*
ツヤケシハナカミキリ
高梁市玉川, 2exs., V. 3. 1958
岡山市半田山, 2ex., V. 10. 1958
- 11 *Leptura aethiops dimorpha* Bates
クロハナカミキリ
日羽, 5exs., V. 4. 1959
岡山市津島, 2exs., V. 9. 1959, グミ花上
- 12 *Leptura arcuata tsumagurohana* Ohbayashi
シマグロハナカミキリ
日羽, 5exs., VI. 18. 1958, 1ex., V. 4. 1958
- 13 *Leptura ochraefasciata* Motschulsky
ヨツスジハナカミキリ
日羽, 1ex., VI. 14. 1957, 1ex., VI. 21. 1959
高梁市玉川, 3exs., VI. 24. 1959

CERAMBYCINAE

カミキリ亜科

- 14 *Xystro cera globosa* Olivier
アオスジカミキリ
真庭郡湯原町湯本, 2exs., VI. 29. 1960 燈火
- 15 *Stenogrinus quadrinotatus* Bates
ヨツボシカミキリ
日羽, 2exs., VI. 14. 1959 燈火 飛来
- 16 *Stenodoryas clavigera* Bates
アメイロカミキリ
岡山市津島, 1ex., V. 24. 1958
- 17 *Stenomalus cleroides* Bates
カツコウメダカカミキリ
日羽, 2exs., VI. 8. 1959, カシ枯木中
- 18 *Pyrestes haenaticus* Pascoe
クスベニカミキリ
高梁市玉川, 1ex., VI. 24. 1959, クリ花上
(標本はないが日羽にも産する)
- 19 *Leontium viride* Thomson
ミドリカミキリ
日羽, 2ex., VI. 18. 1958 花上
高梁市玉川, 1ex., V. 3. 1958, 1ex., VI. 24. 1959
- 20 *Semnotus japonicus* Lacordaire
スギカミキリ

- 高梁市小高下, 1ex, M. 29. 1959, スギ材上
- 21 *Callidium rufipenne* Motschulsky
ヒメスギカミキリ
日羽, 2exs, M. 25. 1957, スギ枯木中
- 22 *Xylotrechus chinensis* Chevrolat
トヲフカミキリ
日羽, 1ex, M. 10. 1958, 飛羽中
蒜山原, 4exs, M. 28. 1960, クワ樹幹
- 23 *Clytus melaenus* Bates
シラケトラカミキリ
高梁市玉川, 1ex, V. 3. 1960
- 24 *Clytus laetus* Matsushita
ズマルトラカミキリ
高梁市玉川, 1ex, V. 3. 1958, 1ex, V. 3. 1960
- 25 *Cyrtoclytus caproides* Bates
キスジトラカミキリ
日羽, 1ex, V. 21. 1958
岡山市津島, 1ex, V. 12. 1958, カエデ枯枝上
- 26 *Brachyelytus singularis* Knecht
アカネトラカミキリ
日羽, 2exs, M. 20. 1957, ブドウ伐採枝中
- 27 *Chlorophorus annularis* Fabricius
タケトラカミキリ
日羽, 1ex, M. 30. 1958, 1ex, M. 10. 1963
- 28 *Chlorophorus diminutus* Bates
ヒメクロトラカミキリ
日羽, 2exs, V. 21. 1958, 花上
高梁市玉川, 3exs, V. 3. 1958, 花上
- 29 *Chlorophorus japonicus* Chevrolat
エグツトラカミキリ
日羽, 2exs, M. 30. 1958, 花上
高梁市玉川, 1ex, M. 27. 1959, 花上
岡山市半田山, 3exs, V. 10. 1958, 花上
- 30 *Dere thoracica* White
ホタルカミキリ
日羽, 5exs, M. 29. 1959, 4exs, V. 3. 1958
- 31 *Purpuricerus petacifer* Fairmaire
モンクロベニカミキリ
日羽, 1ex, V. 3. 1958, ツメギ葉上
- 32 *Purpuricerus spectabilis* Motschulsky
ヘリグロベニカミキリ
日羽, 3exs, V. 3. 1958, 花上
- 33 *Purpuricerus townckii* Guerin-Meneville
ベニカミキリ
日羽, 6exs, V. 4. 1959, 1ex, M. 7. 1959, 花上
6exs, M. 12. 1964, 枯竹中
高梁市玉川, 3exs, V. 3. 1958, 3exs, V. 3. 1959
- フトカミキリ亜科
- 34 *Psacotha hilaris* Pascoe
キボシカミキリ
高梁市玉川, 1ex, X. 8. 1957, イチブク樹幹上
- 35 *Mnouchanus alternatus* Hope
マツノトビロカミキリ
日羽, 1ex, M. 8. 1958, マン枯枝中
- 36 *Mnouchanus subfasciatus* Bates
ヒメヒゲナガカミキリ
日羽, 5exs, V. 26. 1959
すべてクルミ枯枝中より蛹採集3~5日後に羽化したもの。
高梁市玉川, 1ex, M. 24. 1959
- 37 *Cypricola luxuriosa* Bates
センノキカミキリ
高梁市巨瀬, 1ex, M. 3. 1963
- 38 *Anoplophora malasiaca* Thomson
ゴマダラカミキリ
日羽, 1ex, M. 24. 1959
岡山市津島, 1ex, V. 17. 1959
- 39 *Uraecha bimaculata* Thomson
ヤハズカミキリ
日羽, 1ex, M. 1. 1958; 2exs, M. 6. 1959
- 40 *Batocera lineolata* Chevrolat
シロスジカミキリ
日羽, 2exs, M. 4. 1959, 1ex, M. 12. 1964
- 41 *Ayriona gemari japonica* Thomson
クワカミキリ
日羽, 2exs, M. 5. 1958, イナズメ樹幹上
- 42 *Mesosa nyops japonica* Bates
日羽, 5exs, V. 3. 1958, カキ枯木上
高梁市玉川, 2exs, V. 3. 1958
- 43 *Mesosa hirsuta* Bates
カタジロゴマフカミキリ
日羽, 3exs, M. 4. 1959, ツメギ枯枝上
- 44 *Mesosa longipennis* Bates
ナガゴマフカミキリ
日羽, 1ex, M. 13. 1959; 1ex, M. 27. 1959
岡山市津島, 2exs, M. 18. 1959
- 45 *Rhodopina lavis* Bates
セミスジカミキリ
日羽, 1ex, M. 1. 1958
- 46 *Olenecaptus clarus* Pascoe
ムネホシシロカミキリ
蒜山原, 1ex, M. 28. 1960
- 47 *Olenecaptus octopusulatus fomasarus* Pic
タカサゴシロカミキリ
日羽, 1ex, M. 25. 1959, 燈火飛来

LAMI INAE

- 48 *Pterolophia angusta* Bates
マルモンサビカミキリ
日羽, 1ex, III. 29. 1958, 1ex, V. 18. 1958
- 49 *Pterolophia annulata* Chevrolat
ワモンサビカミキリ
日羽, 3exs, V. 5. 1958, 1ex, III. 22. 1959
1ex, III. 27. 1959, 6exs, M. 29. 1959
1ex, V. 14. 1959
- 50 *Pterolophia candata* Bates
トガリシロオビサビカミキリ
日羽, 1ex, M. 14. 1959, 1ex, M. 24. 1959
2exs, M. 4. 1959, 1ex, M. 28. 1959
- 51 *Pterolophia jugosa* Bates
ナカジロサビカミキリ
日羽, 1ex, V. 5. 1958, 5exs, III. 29. 1959
2exs, M. 4. 1959
- 52 *Pterolophia leiopodina* Bates
シロオビサビカミキリ
日羽, 4exs, M. 14. 1959
- 53 *Pterolophia rigida* Bates
アトモンサビカミキリ
日羽, 1ex, III. 27. 1959, 3exs, V. 4. 1959
1ex, M. 14. 1959, 1ex, M. 7. 1959
1ex, M. 27. 1959
高梁市玉川, 3exs, V. 3. 1959
- 54 *Pterolophia zonata* Bates
アトジロサビカミキリ
日羽, 1ex, M. 7. 1959
- 55 *Mesosella semiola* Bates
クワサビカミキリ
日羽, 1ex, III. 14. 1958 (羽化日)
XII. 1957 幼虫採集
- 56 *Asaperda rufipes* Bates
キクスイモドキカミキリ
日羽, 3exs, III. 29. 1958, 2exs, V. 4. 1959
岡山市半田山, 1ex, V. 5. 1958
- 57 *Rhopaloscelis unifasciatus* Hllessig
ヒトオビアラゲカミキリ
高梁市玉川, 1ex, V. 3. 1958, 5exs, V. 3. 1959
- 58 *Pseudocalamobius japonicus* Bates
ドウボソカミキリ
高梁市広瀬, 3exs, M. 24. 1959
- 59 *Exocentrus fasciolatus* Bates
クモガタケシカミキリ
日羽, 5exs, M. 7. 1959. (羽化日)
III. 1959 幼虫採集
- 60 *Exocentrus guttulatus* Bates
シラオビゴマフケシカミキリ
日羽, 2exs, M. 7. 1959 (羽化日)
III. 1959 幼虫採集
- 61 *Exocentrus lineatus* Bates
アトモンマルケシカミキリ
日羽, 1ex, M. 7. 1959 (羽化日)
III. 1959 幼虫採集
- 62 *Eutetratha ocelota* Bates
ヤツメカミキリ
日羽, 1ex, III. ?. 1959 サクラ枯木上
- 63 *Paraglenea fortunei* Saunders
ラミーカミキリ
日羽, 1ex, M. ?. 1959 クサマオ葉上
- 64 *Nipserha marginella* Bates
ヘリグロリンゴカミキリ
日羽, 1ex, M. ?. 1958
高梁市玉川, 1ex, M. 24. 1959
- 65 *Oberca japonca* Thunbery
リンゴカミキリ
日羽, 1ex, M. 1. 1958; 1ex, M. 25. 1959
- 66 *Oberca vittata* Blessig
ホンキリンゴカミキリ
日羽, 2exs, M. 6. 1959, 1ex, M. 24. 1959
岡山市後樂園, 1ex, V. 27. 1962
- 67 *Phytoecia refoventris* Gautier
キクスイカミキリ
日羽, 2exs, III. 29. 1959 キクの葉上
- 68 *Phytoecia cones* Bates
ヨツキボシカミキリ
日羽, 2exs, V. 15. 1959 (羽化日)
III. 2. 1959 幼虫採集
- 69 *Chreonoma fortunei japonica* Gahan
ルリカミキリ
日羽, 1ex, M. 22. 1958, 1ex, V. 10. 1959

備中広瀬蛾類採集品目録(1)

楨 本 精 二

日時 Ⅲ 27 1964 昼間 晴天
 コース 高梁市上神崎一笠根
 採集品名は北隆館発行原色昆虫大図鑑(1)により
 図版の頁及び番号をあわせて記載した。
 ○印は倉敷昆虫館未展示品、※印は岡山県未記録
 品である。

1	ギンボシリンガ	90-12
2	ニセウンモンクチバ	100-8
3	○フタテンアツバ	104-7
4	ヤマガタアツバ	104-14
5	ウスズマアツバ	104-15
6	○トビモンアツバ	104-23
7	台湾キシタアツバ	104-29
8	○クロスジアツバ	106-10
9	○ミスジアツバ	106-22

10	○オビマダラアツバ	106-33
	暖地に産するが稀らしい	
11	○フタテンシロカギバ	122-4
12	○ナミガタウスキアオシヤク	126-20
13	○フタトビスジナミシヤク	133-2
14	ウスキオエダシヤク	143-13
15	ミヤマツバメエダシヤク	153-5
16	モンシロツマキリエダシヤク	158-7
17	ミスジツマキリエダシヤク	158-8
18	トガリエダシヤク	160-5
19	ウラベニエダシヤク	160-13
20	マドガ	165-1
21	○ホシオビホソノメイガ	172-12
22	○ルリマエヒゲナガ	183-13

おとしぶみ

蝶の異状型2種

県内産蝶の異状型については岡本氏
 のコミスジ(すずむし, V01.10.
 №1)があるが他にあまり聞かぬ。筆
 者はいずれも軽度のものであるがジャ
 コウアゲハとメスグロヒヨウモンの異
 状型といえるものを採つているので報
 告しておく。

1. ジャコウアゲハ♀

これは前翅の一部がくびれたもので
 ある。この型のもは新昆虫の別冊(小
 中学生のための昆虫研究の手引き V01
 11. №8. 1958)のP30に飼育によつ
 てできたジャコウアゲハの奇型として
 写真がでているがこの標本は野外産である。特に
 左前翅のくびれがひどく外縁の黒帯が切りとつた
 ようにそこだけ消えている。

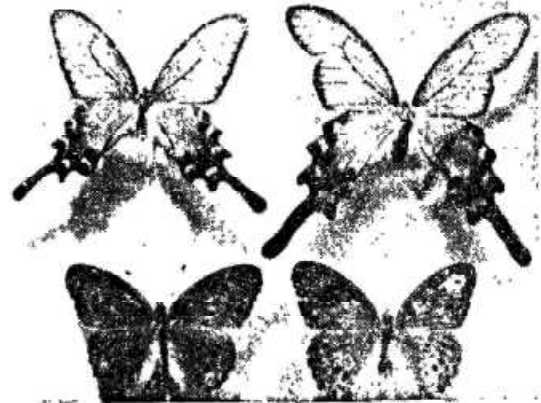
1963. 8. 27 高梁市玉川, 採集

2. メスグロヒヨウモン♂

ヒヨウモン類の白化型は、時々あるらしいがこ
 れはその白化現象が部分的に現われたものである
 即ち右前翅、五・六・七室の一部及び、右後翅、
 二・三室の一部が白化したものである。

1958. 6. 14 金甲山, 赤枝採

(赤枝一弘)



上. ジャコウアゲハ♀ 下. メスグロヒヨウモン♂
 (左) 正常型 (右) 異状型

アサギマダラを鴨方町で採集

昭和38年11月6日, 鴨方高等学校生徒清水
 純子嬢がキクの花に舞い来つたアサギマダラの♀
 を1匹捕えた。場所は鴨方駅の西の六条院である
 標本は全く新鮮であり、私が大切に保存している

(宇野弘之)

おとしぶみ

アサギマダラの食草について

県南部のアサギマダラの食草については、近藤氏によつてカガイモも食草になることが分つた。(すずむし, V01.13. 頁1)これが平常行われるならキジョラン、カモメヅルがなくても南部で発生することも可能であるわけである。このことについて、本年度の総会の時にも言つたのであるが香川県の例が参考になるので、ここに上げておく、香川県の蝶の概観、原田浩 Nature (新昆虫抄録による)の内スジボンヤマキナヨウ...クロウモドキ科はナツメしか分布しておらず、新食草か他県からの飛来が考えられるとあり、さらにアサギマダラのらんは

アサギマダラ...カモメヅル、キジョランは分布しないが、ガガイモ、コバノカガイモ、イクマコイケマなどを食していると思われる。となつてゐる。これによると県南と同じように香川県にもキジョラン、カモメヅルは分布せず、しかもアサギマダラは分布していることが分る。カガイモが野外での食草になつてゐることが予想されるわけである。ただ筆者の考えではカガイモは各地に相当多い植物であるから、これが常時食草になるに於てはアサギマダラの南部での個体が少なすぎるという疑問は残る。

なお岡山、香川の中間の小豆島でも筆者は8月にアサギマダラを目撃したことがあることを附記しておく (赤枝一弘)

アオモンギンセダカモクメ を倉敷で採集

去る1961年8月に、倉敷市栄町富士銀行前の水銀燈で採集して以来、種名不明のままであつたヤガの一種を、このほど本同好会の横本精二氏に同定していただいた結果、

Cucullia argentea Hufnagel

アオモンギンセダカモクメ
であることがわかつたので報告します。

本種の本邦での記録は非常に少なく、既産地としては、本州 岐阜市 新潟市

四国 松山市

で、新潟市での記録は、
蛾類同志会通信(14-15):136(1958)
* (16-17):144(1959)

佐藤力夫、桜井精が記述しているところによると、新潟市競馬町 1957.9.23 1羽 村木弘昌採集

とあり、岐阜市及び松山市は北隆館発行原色昆虫大図鑑 I 1959年に記載してある。その他の採集報文がないため、全国で4番目の記録であると思われ標本は一応倉敷昆虫館内に展示しておく。

尚、同定及びいろいろご指導していただいた横本精二氏に深く感謝致します。

(山砥司朗)

クロスジギンヤンマの おそい羽化記録

昨夏(1963年)8月5日、総社市八代の湿地を訪れた際ネキトンボの脱殻を採集したことは前号①に記したがその時同じ溜水の水辺でギンヤンマの脱殻と思われるもの5個を発見、内3個体は新鮮で2個体は破損していたため、新鮮な3個を採集して帰つた。その後、整理のためこの脱殻を検討したところクロスジギンヤンマのものであることが判明した。

クロスジギンヤンマは一般に4月から6月までに羽化し、岡山でも7月8月の成虫採集記録はみあたらない。②又、県外の成虫採集記録をみても、8月というのは広島県③にみられるだけである。羽化は春に行うものが殆どで、ギンヤンマのように長期に渡つて羽化しないのが普通である。この点、朝比奈先生も「春期におくれて羽化する個体(6月頃羽化するもの=筆者注)は越冬の際に最終令一つ前までしか達しなかつた個体であろうと思われる。」④といわれている。

この様にクロスジギンヤンマの脱殻が8月5日に新鮮なものが得られたことは異状な例のように考えられるのでここに記録しておく。

なほ、採集地が特殊な環境①であるためなのかたまたまの偶然なのかは今後研究してみる必要があると考えられる。

(参考資料)

- ① 林憲一「ネキトンボの脱殻をとる」
すずむし V01.13. 頁4
- ② 林憲一「クロスジギンヤンマの記録」
すずむし V01.13. 頁2
- ③ 沢野十蔵「広島県の蜻蛉」第一報
比和科学博物館研究報告第3号
- ④ 朝比奈正二郎「日本の蜻蛉・資料」
新昆虫 9(4)~11(13)
(林 憲一)

=採集記=

龍の口山系でトンボを追う〔1〕
(ベッコウトンボを採る)

赤 枝 一 弘

5月10日電の口山へ本年度二度目の採集に出かけた。ここは筆者の現住所からバイクで約15分のところにある。蝶、甲虫は期待しても駄目であるので、最初からトンボを目標として出発した。この地は現在岡山市になるらしいが、ため池が3個あるし溪流もあり、オジロサナエ、ネキトンボ、ヨツボシトンボ、ミルンヤンマ、クロスジギンヤンマ等のかなり珍しいトンボが採れているところである。弁当も水筒も持たず、長靴姿で出発し通いなれた道を通つて行く。建築中の東岡山工業の前を左にまがり、さらに北へまがってまっすぐ行くと当山へつく、東岡山駅からは相当はなれているので交通は便利とはいえない。山へ入つて少し行くとまず最初の池へ着く、ここをまわつてみるとヘラビロトンボが多い。サナエトンボ類をさがすがあまりない。キイロサナエ?らしい種を逃がしただけである。ここはあきらめて次に進むとかつてオジロを採つた溪流へ出たが、まだ時期は早い。カワトンボが非常に多い、やがて二番目の池へつく、ここも最初の池と同じような環境である。ここでサナエモドキを採る。この種はこゝではかなり多い。続いて三番目のため池へ向つたこの池のまわりはかつて雑木林であり、ネプトクワガタ等はここで採れたのであるが、現在は切りはられて松が植林してある、道から池へ通じる

通路がさゝでかくれてしまつていて苦労する。やつとの思いで池へおりて見ると水が非常に少なく、周囲が自由に歩けるようになっていいる。ここはかつてクロスジギンヤンマが多かつたところであるので注意してみると、はたして本種が飛んでいる。同じコースを往復するので待ち伏せをしていると容易に採れる。28と本種のものと思われ脱皮殻を採る。いつ見てもこの種は背くかがやいて美しい。生きていれるのを見たことはないがルリボシヤンマもこんなものだろうと思う。他にクロイトトンボ、ホソミオツネトンボとオグマサナエ48を採る。♀はいなかつた。こゝより上にはもう池はないので、トンボ採りには期待できない。本日の目標であり、ちよう度10年前にこゝで私がたつた一頭記録したヨツボシトンボは採れなかつた。しかたがないのでいつたん下山したが、どうもこのまゝ帰るのはしやくである。弁当も水筒も持つていないので、空腹とどのかわきは気になるが、ここから20分ぐらいかかる西大寺市側のため池にまわつてみることにする。竜の口連山の続きにあたる西大寺市奥谷津附近でナエワトンボの多かつた池である。こゝへ行くにはいつたん、東岡山までもどり、今度は工業高校の東側をまっすぐに進んで行く。バイクはありがたいもので疲労していても、ひとりでに目的地へ運

んでくれる。こゝには二つ池があり、一つはなんでもないため池であるが北側の池は規模も大きいし、岸辺には一面にガマが生えしげり、何となくヨツボシの発生地のような気がする。雑木林をぬけていくとウサギの死がいがあつた。もう古く毛と骨になつていいる。うらがえしてみたが、シテムシ類の幼虫が居ただけである。最初の池へついたが水草もなく、まったく何もいらない。目的の二番目の池へ着いた。この時期に来たのははじめてで



西大寺市奥矢津の池とガマの群落 [ベッコウ、ヨツボシ、アオヤンマの産地]

あるやはり一面にガマが生え環境はかわつていない。みるからに何かいそうである。こゝなら時期は早いアオヤンマもいるかもしれないという気もする。長靴であるので湿地へ入つて行くと小型のサナエが多い。片はしから採つてみると、フタスジサナエである。いずれも本種で4♂を採る。オグマと同じように♀は採れない。目的のヨツボシを注意してさがすと似たような種がいたので、さつそく採つてみるとショウジヨウトンボの♀でがつかり、ところがついにそれらしい種がみつかった。ガマにとまつているのをじつとみるとはねに班紋が見える。もうまらがない、しかも体が黄色で班紋の小さい種と、体が黒色で班紋の大きい種が居る。後者はベッコウではないかという気がする。(林先生にヨツボシが採ればベッコウも居ると聞いていたので、うすうす期待はしていた)ところが兩種共なかなかとまらぬし、とまつても非常にすばしい。とてもサナエを採つていた感覚では採れない。何度かあみをふつたがいずれ

も逃がす。こうなつたら腰をすえ絶対に採るまで帰えらぬつもりでがんばりついに黄色い方を採るまぎれもなくヨツボシである。筆者が1954.5.24竜の口山で記録して以来でその間他の記録はない(県下の記録は安東氏の美作、水野氏の稲荷山古く博物の友岡山市周辺にある)今頃は黒い方をと20分ばかり追はまわしやつと1♂を採る。明らかにベッコウである。ベッコウは古く博物の友に記録があるが産地はあきらかでない。また片山氏の美作の記録もあるがこれも明らかでない。本会関係で安東氏の備前町香登に次ぐ二番目の記録と思う全国的にも産地は限定されており人工の加わらぬ古い池にかぎつて採れるという、ひさびさに胸のおどつた採集行であつた。次にはこの池でアオヤンマ、秋にはマダラナニワをさがしてみなければと思いをがら帰路につく。

当日の採集品 ハラビロトンボ1♂1♀ カワトンボ1♂ ホソミオツネトンボ1♂ オグマサナエ4♂ フタスジサナエ4♂ クロスジギンヤンマ2♂ ヨツボシトンボ1♂ ベッコウトンボ1♂

ドクトル・ザーメン採集回顧録(3) " 灯台 下 略し "

ドクトル・ザーメン

昭和38年11月3日は倉敷昆虫館の第2回開館記念日であつた。11月3日は文化の日であるわれわれにとつて意義深いこの開館記念日の佳き日に、日本国政府が国民の祝日"文化の日"を制定したことはまことに御守護の至りであり、会員一同いつそうの精進に励み昆虫館をさらに充実拡大させねばならないと思う次第である。ドクトル・ザーメンこと入会後日が浅く、しかもこの方面にかけては浅学非才であるが微力を尽くして昆虫館の発展の為の礎石にならうと覚悟を新たにしているものである。これほど立派に昆虫標本が整理陳列されている所をドクトル・ザーメンは未だ知らない。いわんや会員一人一人の協力というより一人一人が直接維持運営している昆虫館の存在をや。開館にあつた重井博館長をはじめ理事諸氏の献身的な働きや、会員諸氏の純粋な協力的な精神などこの館を支える大きな力、組織に対して頭の下がるものを覚えるのである。お互にこれは自分の昆虫館である。自分の陳列標本箱である。珍らしい標本を一人占めにすることもあるまい。芸術は何よりもまず多勢の人に鑑賞される自由を有する。読者諸氏よお手許に珍品の類ありせば今すぐ御持参のほどを。皆でじつくりと眺めて楽しむ

うではないか。かく申すドクトル・ザーメンも近日中に小野氏の欲しがっているノコギリカメムシ等を持参することをここに宣言するものである。

さて開館2周年当日、会員の汗の結晶である立派な芸術品に拝顔の榮に浴しながら、かつ会員諸氏の御努力に襟を正しながら標本をゆつくりと見せて頂いた。沖縄方面のトンボ類、昭和38年中に岡山県下で採集された珍品類、最近とみに質量ともに整備されて来た蝶類など印象的であつた。こうして見ると、やはり南の土地である。早い機会に同志を誘つて沖縄、トカラ方面に遠征したいものである。といつても、ドクトル・ザーメンハブにキツスされるのは嫌でありんす、主さんの居ない所へである。午後は講演会であり楽しみにしていたが、急に講師の都合でとりやめとなり代つて座談会が開かれた。終つて山海の珍味の御馳走の山が運ばれ、ビールに舌つづみをうつ。もつとも大学生以下未成年者はジョースであつたの言うまでもない。重井館長のお志だそうでいつものことながら有難く頂いた。今でもおいしかつたその味が舌に残っている。望むらくは昭和39年11月3日開館第3周年当日には再びこの思い出の味が現実のものとならんことを。

さて座談会の席上、トンボの林氏から次のようなことを耳にされた。昆虫館に陳列されている安藤氏採集のタイリクアカネの4♂2♀は、6月13日に浅口郡金光町で採集されたものであるがはつきりした場所は占見の升池だとのことであるこれは大変なシヨツタであつた。升池といえは私の勤務先の近くで私の縄張りの一つであり、そのドクトル・ザーメンに何の断わりもなく縄張りを荒らすとは、しかもタイリクアカネなどを獲るとはけしからぬ話である。昨年だつたか重井館長にこれも私の縄張りの一つである浅原を荒らされ、ムラサキツバメを採集されたことがある。いつたいドクトル・ザーメン親分は何をのろろして居るのかということになり、親分の面目丸つぶれである。日本昆虫図鑑によると北海道、本州の各地四国、九州に分布しているが採集される数は少ないとある。6月13日の安藤氏採集品は未熟個体であつたが、今頃行くとも熟個体がいるかも知れぬとの林氏の話である。

ここは一つタイリクアカネを採集し、つぶれかけたドクトル・ザーメンの面目を少しでもとり戻すチャンスとばかり、早速11月4日月曜日に勤務の間を縫つて出かけた。雲一つない絶好の採集日和で、午後2時頃池に到着した。しかしさすがに東南の風がかなり強く池面をふき渡り、いささか面くらつた。早速池の土手に立つとすぐ下に一匹のトンボが目に映つた。そこはそれドクトル・ザーメン、視力は抜群でまず私の目を逃れることはできまい。羽の色などから目ざすタイリクアカネらしい。何だ、こんなに簡単にとれるのかと、張りつめていた緊張がゆるんだ瞬間すと飛び立つた。今度止まつたら網をふろうとその行方を追つたが、さすがにその飛趨はす早くはるか彼方に飛び去つた。こんなことなら早く網をふればよかつた。少し慎重にすぎたかと口惜しかつたが仕方がない。池の土手に浴つて廻るうちにそれらしいものを発見、見つけると同時に反射的に網をうら振つていた。その手練のあざやかさ！手応十分捕えてみるとまぎれもなくタイリクアカネである。どんなもんだとさらにあたりを見廻すと“飛んで灯に入る夏の虫”，キトンボが続けて2匹現われてこららにとんでくる。折角のことだ、難なく捕えた。幸先よし、いざよき敵見参、見参。大声で呼ばれる代りにあたりをにらみ渡し大見得をきみしかし、呼べど応へず。2時間あまりトンボを捜し廻つたが、ドクトル・ザーメンの手並に恐れをなしたか遂に一匹もその姿を現わさなかつた。当日の採集個体僅かに3個体のみ。

明けて翌5日、風はすこし強いが、天気よし、

今日こそは根こそぎひつ捕えてやろうものをとばかり、午前、午後と2時間ずつ計4時間ほどねばつたが遂にトンボと名のつくものは一匹も姿を見せなかつた。15分ほどかかつて自転車をふんできてゐるのに、一匹も獲物が無いとは全く残念である。トンボがいるものならばその姿を現はさせ給えと目をつむつて祈ることしばし、静かに目をあければ風が幾分やわらいだ様子、天は我が願を聞きとどけ給えりとなおよく目をとらす。しかし遂に一匹も現われなかつた。不愉快な足取りで学校に帰る。自転車を置き、無念の思いで空を仰ぎふり返ると、これはどうだ、自転車小屋の上にタイリクアカネらしいものがとまつて日なたぼつことしやれこんでいる。ああ、天は我を見捨て給はずと、思はずはやる心をおさえ慎重に近づいたが敵もさるもの一目散にと逃れ去つた。さてはドクトル・ザーメンの名声一日にして千里を走つたものか、敵ながら天晴れな振舞いと言わざるを得ない。

勤務校の自転車小屋に現われるとは、これはきつとどこか近くの池に巣くつてゐるに違いないと目当をつけた。もしあの時うまく捕えていたら、とてもこんな才覚は生まれなかつたろう。逃がしておいてかえつてよかつたのだ。11月13日によく学校近くの池に出かけた。快晴ではあつたが前回と同様かなり風が強かつた。居る居る、さすがドクトル・ザーメンの目に狂いはない。土手にへばりついて止まつている。今日こそはと、風下から近づいてたらまらにして4匹を召捕つたこの間僅か4～5分の早業であつた。

4. 5日 360分で1匹
13日 5分で4匹

時間の使い方は13日のようにありたいものである。林氏にそそのかされたばつかりに、遠くの升池まで出かけたが、自分のお膝下でとれるのである。目と鼻のところでだ。灯台下暗し、近辺をかためてから遠征すべきであることを身をもつて体験した次第である。

4月の採集個体は8であつたから、早速精巢を切り出したが、やせ衰えてもはや御用納めが終つたものと見た。この調子では13日採集のものも多分そうだろう。こんな轍だらけの爺いの一物も知れたもの、切りとるだけは勘弁してやつた。それにしても捕えたのが5匹が5匹とも8とはどうしたことなのか。ドクトル・ザーメンよくよくレディーには縁がないものか。(昭和39年4月1日記)

会だより

1964年度倉敷昆虫同好会総会メモ



桜の便りを耳にするころ私達同好の士は、花見ならぬ虫の会を1昨年の会場、倉敷市栄町富士銀倉敷支店三階ホールにて開催しました。遠くは里庄児島、西大寺そして岡山からぞくぞく20数名の会員の皆様が集まり、下記の日程で、暮が切つておとされ、今年も活気を帯びて来たようでありました。

1. 開会宣言 林憲一氏
2. 経過報告 近藤光宏氏
3. 会計報告 青野孝昭氏
4. 本年度行事計画 小野洋氏
 - (1) 会の運営
 - ① 第2土曜例会を行う
 - ② 採集重点目標蒜山の昆虫相調査
 - (2) 会誌
 - ① 発行計画

(3) 事業

- ① 採集会 5月3日金甲山, 雨天5日.
7月26日 矢の峯 雨天
8月2日 9月(日) 場所未定
- ② 同定会 8月23日
- (4) その他 蝶の目録をつくる 岡山県の目録
5. 談話会 発表
 - (1) 岡山県の蝶赤枝一弘氏
 - (2) 県内の注目すべき昆虫 青野孝昭氏 林憲一氏
 - (3) 宝島北海道採集記(秋山, 前田) 秋山博志氏
6. 閉会

写真説明 後列右から宇野弘之氏、赤枝一弘氏、松野宏氏、脇本浩氏、岡本忠氏、青野孝昭氏、秋山博志氏、中列右から林憲一氏、重井博氏、織田明文氏、熊川謙氏、平田氏、高原哲夫氏、前列右より小野洋氏、佐々木良一氏、亀高茂氏、山砥司郎氏、山砥克巳氏、楠田雲居氏、貝原英治氏。

会員消息

住所変更

- 85 脇本 浩氏(旧姓堀)岡山県都窪郡清音村上中島柳原362の2
- 86 岡本 忠氏 高梁市弓之町2区
- 61 赤枝一弘氏 西大寺市益野190D-42
- 4 小野 洋氏 倉敷市浜ノ茶屋 797-126

1963年度会計報告

借方	金額	貸方	金額
会誌印刷費	33,650	前年度繰越金	6,130
通信費	7,195	会費	22,290
事務用品費	5,370	広告費	17,050
雑費	120	会誌売上	3,475
次年度繰越金	2,640	雑収	30
計	48,975	計	48,975

目 次

榎本精二：岡山泉の蛾(2) —スズメガ科—	1
岡本 忠：カミキリムシ科採集目録	5
榎本精二：備中広瀬蛾類採集品目録(1)	8
☆ お と し ぶ み ☆	
赤枝一弘：蝶の異状型2種	8
宇野弘之：アサギマダラを鴨方町で採集	8
赤枝一弘：アサギマダラの食草について	9
山砥司朗：アオモンギンセダカモクメを倉敷で採集	9
林 憲一：クロスジギンヤンマのおそい羽化記録	9
☆☆☆☆☆	
赤枝一弘：竜の口山系でトンボを追う (ベッコウトンボを採る)	10
ドクトル・ザーメン：ドクトル・ザーメン採集回顧録3 "灯台下暗し"	11
会 だ よ り	
1964年度倉敷昆虫同好会総会メモ、会員消息、1963年度会計報告	12

医 療 法 人

重 井 病 院

倉 敷 市 幸 町

TEL 代表 (22) 3 6 5 5